

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成17年2月10日(2005.2.10)

【公表番号】特表2000-516138(P2000-516138A)

【公表日】平成12年12月5日(2000.12.5)

【出願番号】特願平10-509386

【国際特許分類第7版】

B 0 5 C 17/01

B 6 5 D 83/00

【F I】

B 0 5 C 17/01

B 6 5 D 83/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月11日(2004.5.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年 5月11日



特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第509386号

2. 補正をする者

氏名(名称) ミュールバウアー, ヴォルフガング・カール・
フリードリッヒ

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葆



4. 補正対象書類名 明細書、請求の範囲および図面

5. 補正対象項目名 明細書
請求の範囲
全図

方 式 査 査



6. 補正の内容

(1) 明細書中、次の箇所を補正します。

①第2頁第20行目

「クレーム1の特徴部分」を、

「クレーム1又はクレーム5の特徴部分」と訂正します。

(2) 請求の範囲を、別紙の通り補正します。

(3) 図面を、別紙の通り全図補正します。

以上

請 求 の 範 囲

1. 自由に流動する物質を搾り出す装置であって、

前記物質を収容し、少なくとも一端に肩部（12）と該肩部に接続されたシールリング（13）とで囲まれた開口（8）を有し、少なくとも一つのシール部材（15, 22, 45）を有しあるいは形成された細長い管状袋（1）と、

管状袋を収容し、一端に圧力ピストンを受け入れ、他端に流出口（9）を有し、該流出口（9）が袋の開口（8）と相互に作用するとともに、管状袋（1）の肩部（12）およびシールリング（13）と対向する端面（11）によって囲まれているシリンダ空間（10）を有する搾り出し装置（2, 5）と、からなる装置において、

前記シールリングのシール部材（15, 22, 45）は、流出口（9）を囲む端面（11）、すなわち、端面（11）によって形成された流出口の縁とのみ相互に作用していることを特徴とする搾り出し装置。

2. 前記シールリング（13）は、袋の軸（42）に対して角度を持って移動可能であるように、袋に接続されていることを特徴とする請求項1に記載の装置。

3. 前記シール部材（15）は、ディスク（16）に支持され、あるいは、ディスクとして設計され、

該ディスクは、環状ビード（41）の内側で袋の端面（12）に接着され、

前記環状ビードは、袋の端面（12）に面し、その径は袋（1）の径よりも小さいことを特徴とする請求項2に記載の装置。

4. 前記シール部材（45）のシール面（46）は、球形または円錐形で、

接触点における接線と中心線（42）との間の角度（48）は、流出口（9）の壁（44）の方向と中心線（42）との間の角度よりも大きいことを特徴とする請求項1に記載の装置。

5. 自由に流動する物質を搾り出す装置であって、

前記物質を収容し、少なくとも一端に端面(12)と該端面に接続されたシールリング(13)とで囲まれた開口(8)を有し、少なくとも一つのシール部材(45)を有しあるいは形成された細長い管状袋(1)と、

管状袋を収容し、一端に圧力ピストンを受け入れ、他端に流出口(9)を有し、該流出口(9)が袋の開口(8)と相互に作用するとともに、シールリング(13)の表面と相互に作用するシール面(43)を有するシリンダ空間(10)を有する搾り出し装置(2, 5)と、からなる装置において、

前記シールリング面および／または前記シール面(43)は球形であることを特徴とする搾り出し装置。

6. 前記シール面(43, 46)の接触点における接線と中心線(42)の間の角度(48)は、30°より大きいことを特徴とする請求項1から5のいずれかに記載の装置。

7. 前記袋の開口(8)を前記流出口(9)に対して芯合わせするために、前記環状ディスク(14)の外径は、前記シリンダ空間(10)の内径よりもさほど小さくはないことを特徴とする請求項1から6のいずれかに記載の装置。

8. 前記シールリング(13)の外周面(28)は、少なくとも4mm、またはシールリングの径の6%の高さを有していることを特徴とする請求項1から7のいずれかに記載の装置。

9. 前記シールリングは、該シールリングをシール位置に拘束する少なくとも一つの保持部材を備えている請求項1から8のいずれかに記載の装置。

10. 前記保持部材は、前記シリンダ空間の内壁と相互に作用するクランプ(2

3) として設計されている請求項9に記載の装置。

11. 前記保持部材は、前記端面(11)と相互に作用する少なくとも一つの吸引ホルダとして設計されていることを特徴とする請求項10に記載の装置。

12. 少なくとも袋(1)をシリンダ空間(10)の外方に導く方向に、シリンダ空間(10)の壁(3)と摩擦で相互に作用するブレーキ部材(30)が、開口(8)を含む端面と反対側の袋(1)の端面に設けられていることを特徴とする請求項1から11のいずれかに記載の装置。

13. 前記ブレーキ部材(30)は、ディスクまたはリングからなり、これを介して、圧力ピストン(5)が管状袋に作用することを特徴とする請求項12に記載の装置。

14. 前記ブレーキ部材(30)の外周は、連続的である必要がある場合、シリンダ空間(10)の内径より大きい径を有することを特徴とする請求項12または13に記載の装置。

15. 前記ブレーキ部材(30)とシリンダ空間(10)の壁(3)との間の接触面(33)は、管状袋(1)に支持されているブレーキ部材の領域の面(34)に対して、管状袋(1)から離れる方向にオフセットしていることを特徴とする請求項12から14のいずれかに記載の装置。

図 1

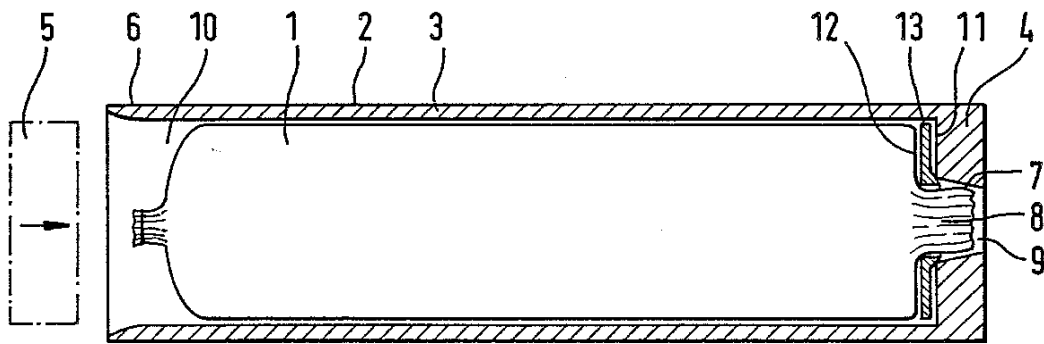


図 2

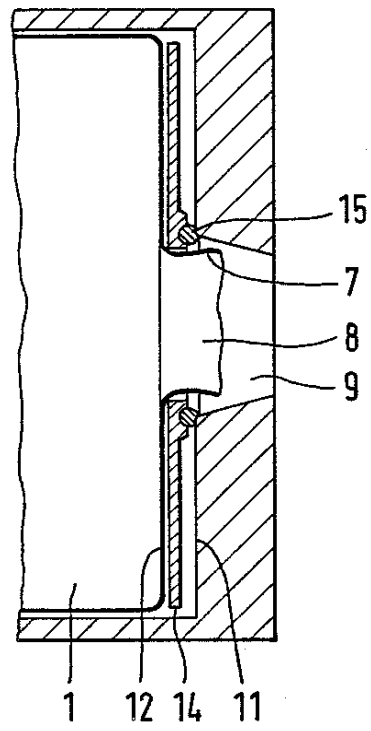


図 7

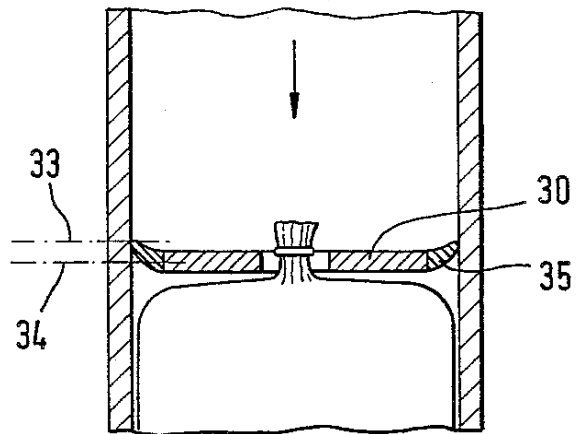


図 3

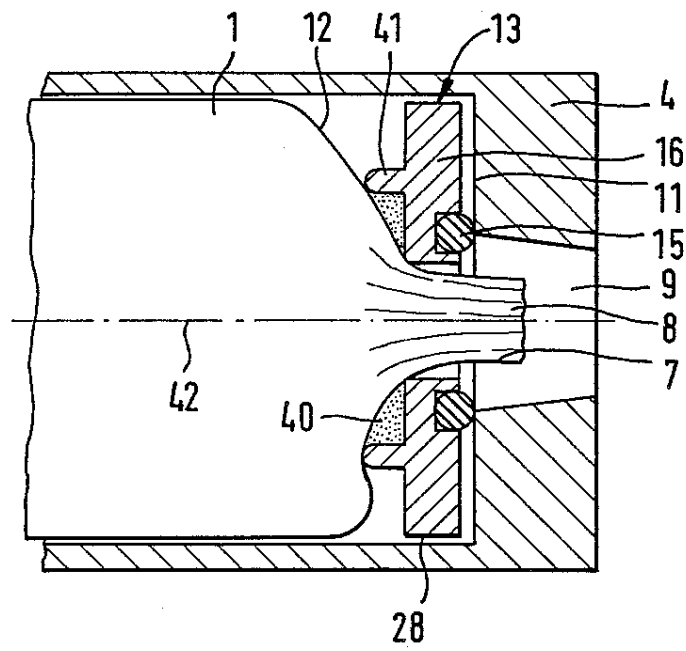


図 4

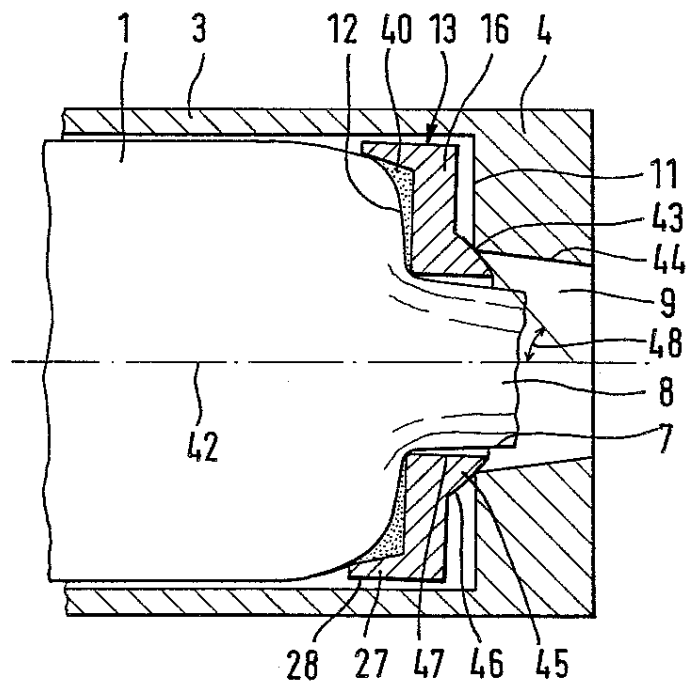


図 6

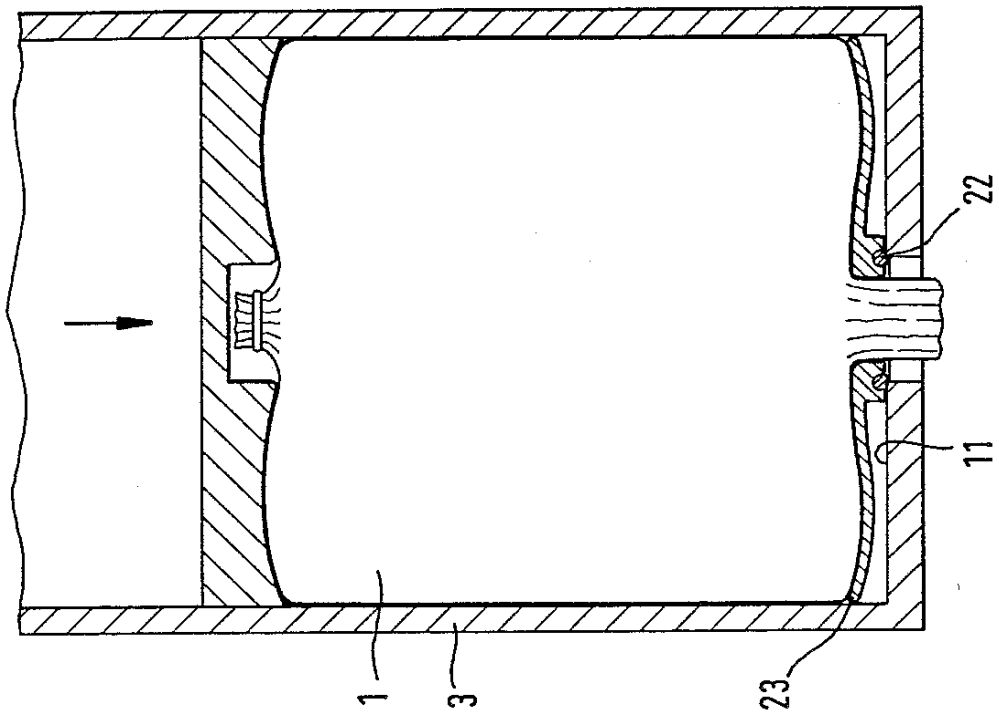


図 5

